

I 実践

1 研究主題

「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒の育成」

2 主題設定の理由

本校では、学校教育目標である「生徒一人一人の夢や希望の実現～『笑顔』と『さかもと魂』の実践～」のもとに、目指す学校像を「『学ぶ喜び』『助け合う喜び』『成長の喜び』に満ちあふれる学校」、目指す生徒像を「『笑顔』と『さかもと魂』を実践する生徒（笑顔……相手意識をもつ、心地よい挨拶・返事、思いやり、美しい言葉 さかもと魂……さわやかさ、かんしゃの心、もくひょうをもつ、とちゅうであきらめない）」として教育活動を行っている。この教育目標を受け、人権教育では「一人一人の生徒に人間の尊さについての自覚をもたせ、互いに大切にしようとする生徒を育てる」、「自ら判断する力を養い、物事を正しく捉え、正しい判断のもとに行動できる生徒を育てる」、「互いの人権を尊重し合い、望ましい人間関係づくりに努める生徒を育てる」の3点を目標として推進している。

本校の生徒は同一小学校からの進学であり、お互いのことをよく知っている。そのため、生徒の仲は全体的に見ると良い方だと言える。しかし、そのような環境の中でも友人関係への不安を背景として登校が難しくなってしまう生徒も存在することは事実であり、大きな課題である。

本校では平成24年9月に生徒間の心ない言動に問題意識をもった当時の1年生が中心となり、「いじめ撲滅委員会」という組織が結成された。（以下、通称のIBIと記す）IBIはまさに、本校の研究主題である「一人一人を大切にし、互いに認め合う」学校の雰囲気づくりを目指して活動しており、本校の人権教育活動の基盤の1つである。学校の雰囲気を良くするための取組は本校の伝統として今もなお受け継がれており、当時の生徒が卒業した現在は各学級の役員がIBI委員となり年間を通して活動が続けている。このIBIの活動を始めた各委員会や学校行事における教育活動を通して、「一人一人を大切にし、互いに認め合う人間性豊かな生徒」を育成することは、前述した課題の解決にも繋がると考え、この主題を設定した。

3 研究の内容

- (1) IBIを含む全委員会活動を通して、ボランティアの精神や他者を思いやる心を育てる。
- (2) 道徳の授業を通して人権意識を高める。
- (3) 生徒の体験的・実践的な活動を通して、人間関係を深める。
- (4) 外部講師の講演を通じて、人権に関する情報や知識を得る。

4 実践内容

(1) 委員会活動

ア IBI委員による「あいさつ運動」

毎週月曜日に正門の前に立ち、登校した生徒一人一人に対してあいさつをすることで、さわやかな学校の雰囲気づくりと生徒一人一人の自己存在感が高揚する活動を行っている。

イ IBIでの各学級の様子を話し合う定例会（毎月1回）

各クラスの様子を報告することで、学級の姿に客観的な目を向け、問題の有無やその原因と改善点を話し合う場を設けている。解決に向けた取組を具体化して学級へ還元することで安心して生活できる雰囲気づくりを行っている。

ウ IBI委員による「IBIフェスティバル」（3学期）

いじめ問題について、委員会の生徒を中心に劇を通して投げかけ、相手の立場に立った考え方や思いやりのある行動について考えを深める集会を企画している。

(2) 道徳の授業の充実

ア 学年一斉の時間割編成

イ 考え、議論する活動の充実

ウ 実践につながる授業展開の工夫

(3) ボランティア活動への参加

ア 「さわやかマナーアップ運動」への参加

I B I 委員の生徒と小学生合同で、坂本小学校付近と本校前で、地域に向けて朝のあいさつ運動を行った。

イ 人権に関する作文や標語への応募

(4) 外部講師による特別授業

ア いのちの授業

1・2年生では地元消防署の職員を招いて救急救命教室を、3年生では茨城キリスト教大学から講師を招いていのちの教室を実施し、一人一人のかけがえのない命について考え、守り尊重するための具体的な方法や意識を知ることができた。



I B I フェスティバル



さわやかマナーアップ運動



いのちの授業

(5) 成果

- ・I B I の定例会において、生徒の視点による各学級の現状や課題について話し合い、必要に応じて教師が指導にあたることで、問題を早期に解決することができた。
- ・I B I フェスティバルでは、委員会の生徒から問題提起をすることで全校生徒の当事者としての意識を高め、相手のことを考えてお互いを大切にしようとする意識を高めることができた。
- ・「さわやかマナーアップ運動」では、昨年度より人数を制限したものの、小学生と連携してさわやかにあいさつ運動を行うことができた。
- ・外部講師による講演を通して、より説得力をもって、具体的な注意点を知らせることができた。

II 今後の課題

学校行事や委員会活動など、コロナ禍の中でもできる範囲で生徒同士のつながりを意識し、全体での活動の充実を図ることができた。しかし、学級経営における教師と生徒の人権意識の向上や、各教科や道徳の授業における人権教育の充実には更なる努力が求められる。校内研修や資料の配付を定期的に行うなど、常に研修の充実に努めていきたい。

III 人権コーナーの設置の様子

それぞれの良さを認め合う「ほめカード」の掲示コーナーを設置し、互いの良いところを可視化し、伝えられるようにしている。

